



樹高26m、樹齢約750年の弘法杉(写真左)。明治17(1884)年築造の大沙川隧道(同右上)。大沙川が平地より高くなっているのがよくわかる(同右下)。



# 大沙川

おのおのすな

伝説と歴史の舞台を歩く

**DATA 湖南市**  
 ●歩行距離▶約3.5km  
 ●歩行時間▶約1時間

## 天井川の堤に立つ弘法大師ゆかりの大杉

川底が周辺の平地地より高くなった川を「天井川」という。国土交通省の2012年の調査によると天井川の数は全国で217本、その3分の1以上が滋賀県に集中している。古代、都の寺院建立のために近江の山々から多くの材木が伐り出され、その結果、多くの土砂が川に流れ、長年にわたり下流部に堆積して川底が上昇したと考えられる。

湖南市吉永の大沙川も典型的な天井川で、この下を旧東海道が通っている。半円アーチ型切石積みの大沙川隧道は、滋賀県下で最初に築造された道路トンネル。このトンネルの上の堤に一本の大杉がそびえている。

地元では「弘法杉」と呼ば

大沙川隧道は、旧東海道の水口宿と石部宿の中間地にあたる。三雲学区では旧東海道(きずな街道)の観光マップが設置され、吉永バス停には休憩所もあり、三雲城跡ハイキングコースの起点にもなっている。11月19日(土)・20日(日)には東海道ウォーク「みちくさコンパス」も開催予定。



旧東海道の休憩所(吉永)

れ、その昔、弘法大師がこの地を通りかかった際、ここで食事をとったあと杉箸を差しておいたのが芽を出し、それが成長したものだといわれている。また、左利きの子どもがこの木の枝で作った箸を使うと、自然と右手で箸を持つて食事をするようになるともいわれ、下の方の枝はた

いてい切り取られていたとか(地元の案内板より)。

もともと杉の木は2本あったそうだが朽ちてしまい、里人が再び植え直したが、その後、台風で一本が倒壊したともいわれている。

東海道を行き交う旅人たちは、弘法杉をどのように見ていたのだろうか。



**モデルコース**  
 JR三雲駅 20分、草津線三雲踏切 10分、吉永バス停-大沙川隧道 1分、弘法杉 10分、草津線三雲踏切 20分、JR三雲駅

※移動時間はあくまでも目安です(休憩時間等含まず)。  
 ※コミュニティバス甲西南線(妙感寺ルート)を利用する場合、JR甲西駅から「吉永」まで約5分、JR三雲駅から「吉永」まで約15分。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!  
<http://www.keibun.co.jp>

**“Walk on”とは**  
 「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意図があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょうか。

